

令和5年第2回伊丹市スポーツ推進審議会議事録

【開催日時】 令和6年3月25日(月)13時30分～15時00分

【開催場所】 伊丹市役所201会議室(若草)

【出席】 富山会長、光本委員、稲葉委員、安井委員、河本委員、北村委員、吉野委員

【署名委員】 河本委員、北村委員

1. 委嘱上の交付

2. 議事

資料「伊丹市スポーツ推進計画の中間見直し時の主なポイント及びそれらに対応した令和6年度の取組予定内容」について、事務局から説明

(会長)

ありがとうございました。ただいまの説明について、ご質問等ありますか。

(委員)

勉強不足なんですけれども、健康チャージポイント事業についても一度教えてもらっていいですか。

(事務局)

市の健康政策課が行っている事業で、こういうスポーツイベントに参加したとかを申告し、ポイントを付与して、景品と交換するみたいな事業を健康政策は行っているようで、スポーツ振興課の関連で言うと、例えば、市民ロードレース大会に参加しました、駅伝に参加しましたとなると、何ポイントですねっていうのを承認していただいて、景品等と交換していただけるという、簡単に言えばそういうような事業になります。

(委員)

自己申告ですか。

(事務局)

そこは性善説に基づいて実施している。以前は、メニューは絞って、この事業に参加されたら何ポイントみたいに決めていたみたいなんですけども、今はそういう状態になっているようです。

(会長)

他にいかがでしょうか。

(委員)

3番目の部活動の地域移行について、12月に資料をもらった時にも、ご説明をいただいたが、8中学校で各校1部ずつが、いわゆるパイロット的に地域移行の実証事業やっていくという、6年度も引き続きということで、12月の時に1部ずつどう広げていくかっていうところが、一つ、ポイントだろうということだが、今のところ、実際半年、一部そういうふうに技術的にやられて、課題だったりとか、他の部に広げるにあたって、このスポーツだったらやれるが、これちょっとできないとか、そういった事例がすでに出ているようであれば、教えていただければ。

(事務局)

中学校部活動の地域移行につきまして、8中学校で1部、令和5年度に実証事業をしまして、すべて運動部です。令和6年度につきましては、同じ部活で実証事業をする。プラス、文化部を、1部追加をして、実証事業を行うという形に、今のところ、教育委員会の方ではしております。

成果につきましては、これまで部活動は、専門的な顧問からの指導を受けてなかったってところも一部あるので、すでに外部指導員という制度は活用してはいるが、地域移行の実証事業をするにあたって、専門的な方からの指導が受けられるという好印象をお持ちの生徒や保護者が、多数おられたと聞いております。

課題としては、休日の地域移行の実証事業ということで、顧問の先生がいないところで場所の確保や、連絡体制、特にどういうふうな連絡で生徒と、というところが、ちょっとうまくいかなかったと聞いております。

現在、1部活1人ないし2人、複数での指導員という形にしているが、それは、国からの推奨期間内に、予算の限りがあるなかで、実際にどう広げていくかについては、部活の数を増やすよりかは、実証事業でやって

るところをより充実させて、それを広げていこうというスタンスになっておりますので、R6については先ほどお伝えした通り、基本的にはR5の部活でそのまま行い、文化が増えるという形をしております。

(会長)

もう始まっているところで取り組んでいるということですか。

(事務局)

はい。市として、教育委員会としまして、あらゆるパターンで、いわゆる職員の兼職兼業であったり、基本的には、職員の働き方改革っていうところがあるので、あまり推奨しないんですけども、やりたいという先生がおられて、引き続きっていう場合と、外部から、新たな方が入られる場合もある。学校によっては、外部の指導員をされてる方がスライドして、地域クラブの指導員になるといった様々なパターンをしながら、今進んでいる状況になっております。

(会長)

今更で申し訳ないんですけども、このA3資料が、前回の審議会の中間まとめで、こういった形の部分を、推進していこうと定めた方針ですよね。これに取り組んでいくにあたって、ここからA4の資料に集約していただいているという認識ですよね。

(事務局)

A3につきまして、真ん中の令和5年度の具体的な取り組み内容までが、前回お示しさせていただきました内容になっております。それを、今後の方向性として継続するものや、より充実化を図っていくものと考えて、R6の取り組み予定ということで、継続する部分につきましては、引き続きやっていき、より充実化を図る中で、ピックアップしたものが、A4の両面のものという形でご理解いただけたらと思います。

(会長)

この継続、充実というのは教育委員会の方でご検討いただいているものですね。

(事務局)

そうですね。

(会長)

この充実の部分について特に今日A4で示しているという形で、理解していいですか。

(事務局)

そうです。

(会長)

ですので、ここを充実していくっていうところで、よろしいかという部分を含めて審議するでいいですか。

(事務局)

そうです。おっしゃるように、この継続、ちょっとA3横でちょっと字がちっちゃいところ申し訳ないんですけども、項目数が多いと。継続というところで一旦はしておるんですけども、先ほどお話ありました通り、継続じゃなくてここはもっと具体的に、充実図った方がいいよっていうところも、もしかしたらあるかもしれないですが、基本的には、5年度に取り組みが即座にできなかったが、充実化を図っていきたいっていうところに関して、充実という方向性を示し、その確認をA4にまとめさせていただいています。

(会長)

例えば、このA4の方、抜き出し事業につきましても、いろんな主体がありますよね。教育委員会が直接取り組むものもあれば、それではないものもありますよね。例えば、部活動に対しては、地域移行の協議会というところが、取り組んでもらっている。それぞれのところとも連携しながらというか、その部分はこれからのことになりますかね。もうその辺りはある程度、会話できるというような認識ですか。

(事務局)

そうですね、先ほどお話ありました通り、市の教育委員会としてやるべきことと、関係部局、地域移行であれば、協議会で決めた内容とか、協議会との連携っていうのが多々あるかと思っております。

連携という言葉が出てくる部分に関しては、より連携してやりますと、メインでやっていきますっていうところに関しては、継続であったり、充実のところでもそのように書きながら、としております。

(会長)

そういう形で継続、充実を図っていくということで。

最初の方で、伊丹市レディーススポーツ連絡協議会等との連携につきまして、何かありますか。

(委員)

レディーススポーツなんですけれども、毎週月曜日の朝に健康教室を開催させてもらっている。1時間は専門の先生に来ていただいて、健康のストレッチ等の体操をしていただいている。あと、するスポーツということで、皆さんに、バドミントン、スポンジボールテニス、それから、ビーチバレー、卓球とかそういう色々なスポーツを体験することによって、楽しみを覚えて、地域の教室に入っていただくという感じで、今年度は年間にして約1200人ぐらいが参加している。

(会長)

実人数で1200人ですか。

(委員)

延べ人数で、年間にして、1200人。

(会長)

そこは重点施策として引き続きということですか。

(委員)

引き続き市の方にも支援をしていただいて、ボールを新しくしていただくとか支援をしてもらっています。

それから、中学校の部分ですけれども、個人的にはバドミントンをしているんですけれども、バドミントンでは、今年、新たに専門の指導者として1人来ていただいている。今年の中学生の大会においても、阪神大会でいい成績をおさめる子が出てきました。あと、スポーツ21でやっている小学校でも、上達が著しい子をよんで教えていただいて、保護者からはこちらの方も指導して欲しいという要望が来てるんですけれども、ちょっとそれに対応できなくて、特定の子になっている。

そのあたりで、伊丹のレベルを上げるためにやってもらっている。

(会長)

今のは活動ところのところですね。

(委員)

はい。

(会長)

是非、地域移行を今後きっかけに、競技力の向上もそうですし、いろんな子どもたちの機会創出もそうですし、課題を解決できるような方向にもって行ってほしい。

(委員)

そうですね。学校だけでは物足りなくなって、土日の教室の方にも子どもたちが来たりしている。活動としては非常に活発になってきている。一方で、指導者の数が足りなくなってきていて、その辺を集めながらという形になってきている。

(会長)

連携を引き続きとっていきながらその指導者不足というのもね、大きな問題でもあるんですね。

あとは、資金とかお金のことであったりとか、いろんな環境のことが問題に、部活動の地域移行はなってますので、これも今年、重点施策となってくるので、そういった課題の解決にも繋がるのかなと思います。

他、いかがでしょうか。

(委員)

支えるスポーツの取り組みの1番のところですね。質の高い指導者養成活用のところ、スポーツ協会と連携して、このコンプライアンスの研修会を毎年大体3月に実施されています。今後は、時期的なものも今後考えてもらいたい。

それと、中学部活動の地域移行のところですね。クラブ活動の指導者に向けた研修会、これも、大切じゃないかなと思います。中学の顧問の先生方とか或いはOBの方とかいろんな連携の中でうまくいってる事例がこないだ神戸新聞にちょっと出ておりました。伊丹市においても、うまく地域のクラブ活動の指導者の研修会を早期に実施していただきたい。

(会長)

ありがとうございます。研修会は参加される方とかは、たくさんおられますか。

(委員)

そうですね結構多いですね。明日の会議はちょっと人数を把握していないですが。

(事務局)

そうですね。大体 60 人ぐらい。

いわゆるスポーツ協会さんを通じた種目協会さんであったりスポーツクラブ 21 とか、スポーツ推進委員さんであったり、中学校部活動の地域移行の実証事業をやっている地域クラブ活動の指導者の方々、その他、いろいろ聞きつけて、受けないという方々という形で例年それぐらいの人数はしております、やはり今委員からもお話ありました通り、次年度より強化をしていかなといけない、両方やっていかなあかんと思っておりますので、時期につきましては、今お話ありました通り、どのタイミングがいいのかということも踏まえながら、内容もコンプライアンスの向上、特にハラスメント等を含めて、技術力の向上的な部分も触れながらという形でおったんですけれど、昨今のコンプライアンスも含めた全体を通してってところにおきながら、昨今の話題となっている内容も織り交ぜながらの研修会みたいな形でちょっと想定しております。次年度から引き続き強化しながらやっていきたいと思っております。

(会長)

多くの方はもう協会なんかで、指導的立場にあられる方がこられるんですか。

(事務局)

はい。

(会長)

その方の資質向上ということですか。

(事務局)

はい。二つ目の地域クラブの指導者。こちらの方の研修会もやっぱり早急に必要かと思えます。内容も含めまして。

(委員)

私も学校で教師をしております関係で、外部の方の資質的なところを心配しているので、その辺も含めてそういうレベルの研修会をしてほしい。

(会長)

研修だけやって、それで終わりみたいな事例も他ではあったりするかもしれませんが、実際に指導されている方がこられて、研修されているということですので、非常に効率的に進んでいると思えます。

部活動指導員には地域移行の指導者としての役割をはっきりしていただいて、この部活動の事業も重点施策で進めていただきたい。

(会長)

他、いかがでしょうか。みるスポーツのバリアフリー化等についてはいかがでしょうか。

(委員)

これまでずっとハード面のことに関しては、いろんなところから整備をという声があがっていたかと思うが、より充実ということで、この推進審議会の意見を伺いながらということで、具体的には来年度からにはなるんでしょうですけど、動いていきたいと思いますということが文字化されたということが非常に私としては期待が持てるし、より充実させていきたいと思えますので、これが明示されていることが非常によかったなと思えます。

(会長)

見るスポーツのバリアフリー環境の整備が具体的に何するとかは決まっているんですか。

(事務局)

具体的なものにつきましては、まだあれなんですけども、もともと推進計画の方とかでも、若干ではあるんですけども、触れさせてはいただいておりますが、いわゆる時期の話をお話したと思うのですがスポーツ施設全体が老朽化していると。やはり、実際にスポーツをする方々にとってより安全で安心してスポーツに携わっていただく、それもしかりなんですけども、やはり見るスポーツということで、応援してもらうためには、どういう観客席かといったところも含めて、一体で考えていかなといけないと思っております。

(会長)

施設整備計画とか、そちらの方とも絡んでくるんですかね。

(事務局)

そうですね。

(会長)

予算ももらうことであつたり、あるいは、こういうものがありますよというようなことは、案内したいっていうのは、予算にかかわらず両面で、いろいろ出していただければ、具体的にですね、受けられるかなと思います。

(委員)

するスポーツという部分でも、やっぱりハード面は当然関係してくるので、そちらも含めて、会長が言われたように、当然同じ話で、なかなか一筋にとはいかないと思うんですが、両面から何とかしていくというふうをお願いします。

(会長)

最後の伊丹独自のところには、パリオリンピックで期待のもてる選手はいらっしゃいますか。

(事務局)

ちょうど今、選考してる最中というふうに思っております。実際に盛大にパブリックビューイングは難しいと思うが、例えば伊丹出身の方が出るというところに関しては何かしらの応援が必要かなと思っております。

何ができていうのは改めて検討しながらっていう形で。あとはすでにこの前の12月に光本委員からもお話があった、いわゆる伊丹大使の野球の方々とかに、実際に引退されたとか別にして、そういった方々の、活動内容であつたり、事細かく結果をお伝えしますっていうのはなかなか難しいかもしれないんですけども、こういった方々が日本中で活躍しているよと、伊丹市出身の方々が、ということもやっぱりPRしていくべきと思っております。

実際にこの新庁舎の、東側のところに伊丹大使のコーナーというのがあるんですけども、それは広報シティプロモーション課がメインではやっておるんですけども、その中にもスポーツに携わってる方のPRっていうのもやっぱ改めてしていきたいなあという。それが、どこまでできるかあれなんですけど、例えば市のホームページを使いながら、情報発信っていうのはやっていきたいなと考えております。

(会長)

横断幕とかになるとね、ちょっとお金もかかりますけど、ホームページだと、選考、これから、決まってなくても、これから応援して、出してもらえるように頑張ってお応援しようっていう段階からですかね。

(事務局)

そうですね。それとあとスポーツ振興課で公式のインスタグラムの方を立ち上げておりますので、SNS等通じて情報発信だったりしていきたいと思っております。

(会長)

そういう意味では、決まる前から言うと、パラスポーツはね、こういう場に出していく機会になると思います。あるいは、出るんじゃないけど、解説でこんなのがあります。そうすると伊丹出身のあの人の解説が来てる、なんか、そういう個人に触れた話もできると思います。

(会長)

その他ありますか。全体的な推進っていう立場もそうですが全体を見られてどうですか。

(委員)

スポーツクラブも17あるので、その内、私土曜日にスポンジボールテニスをしてるんですけども、今度、体育館が使えなくなって、どこ行って練習したらいいのか。隣の学校のスポーツクラブでいいのかなっていうお話をこの場でいただいて、会員としては、伊丹スポーツクラブの会員なので、自由に行けるんだけど、でもそこへ行ったときに、そちらのクラブの会費も払わないといけないんですけども。いろいろな、そういうことをお話しして、それでもいろんなところでやってる、そのスポンジボールテニスだったらどこでしてるよかっていうのが一覧表みたいなの、このどこの学校でも空調の関係でみんな工事が入ると思うので、どこ行ったら、何曜日、自分の時間とあうところがあるよっていうのが一覧表みたいになってたら、わかりやすくて、行きやすくていいんじゃないかなという気がしました。

(事務局)

そちらのお話につきましては、来年度、再来年度とR6R7の2ヵ年にかけて、市内の小学校中学校の体育館に空調を入れるという工事が始まる件だと思っております。

工事期間中は一定体育館が使えないということで、どこで活動したらってところが今、お話があったと思うんですけども、スポーツ振興課のホームページに例年、学校施設開放事業ということで、体育館であったりグラウンドであったり、どの団体が何曜日に使ってるよという形のページがあるんですけども、それをより、この前、別の会議にはなるんですけど、そういったご意見をいただいたと。確かにその通りかなと思っておりまして、令和6年度、7年度を含めてなんですけども、同じような活動をしている団体さんとの繋がりで、ちょっと使わせてもらうとか、いろんなことがあり得るのかなと思いますので、情報発信については改めて、わかりやすいところにやっぱりしておかないと、だんだんクリックしてクリックして、ようやくわかるようなところだとやっぱり見る人にとってはあれかなと思いますので、ちょっとわかりやすくすることを考えてみます。

(会長)

結局わからないということにならないように。

(委員)

すみません。勉強不足なんですけれども、スポーツセンターが指定運動療養施設の認定を受けたというのは、今までとどう違って、どういうサービスが受けられるのかを、ホームページで発信となっていますが、具体的に書いていただくとわかりやすい。

(会長)

指定運動療法施設というのは。

(事務局)

厚労省が認定してる制度で、スポーツセンターが、指定運動療法施設という認定を受けましたので、例えば医療費控除が受けられるというのがあります。それはいわゆる主治医が、運動、スポーツをして、健康になるために、継続してしなさいよというような、処方箋みたいなものをいただきながら、スポーツセンターです。その中にはスポーツセンター、いわゆる施設にはフィットネスとプールがないといけないというふうな、条件が必要になります。そういったところをやっぱり担ってるところがっていうと、スポーツセンターの方で、公益財団法人のいたみ文化スポーツ財団の方が、スポーツセンターで認定を受けたというところで、これについてはスポーツセンター側も情報発信は、センターとして、カラダラブという事業で、フィットネスしたり、運動したりってところのホームページを別途設けていただいておりますんですけども、これをより市としてもやっぱり、健康と医療のところの町ですね、そういうふうなところも含めてPRしていく必要があるんだというふうに思っておりますので、そういったものも、わかりやすくPRできたらというふうに思っております。

(会長)

健康のところは、そういう形で先ほどのポイントのところも、いかがですか。

(委員)

今お話いただいた分、運動処方箋みたいな関係だと思います。

(事務局)

そうですね。

(委員)

多分、まだ健康保険ではないですよ。昔からいろいろあったが、医師が運動処方ってというのは、取り上げられてるんですけど、なかなか多分、実際に、動いてないような状況。結構今、スマホを使ったり、マップに関しても、いろいろ運動施設のマップ、医療機関でも健康スポーツ医がいるマップであるとか、ちょっとそういうのを作っていかれたら、結構活用しがいがあるかなと思います。兵庫県が多分そんな風なことをやり始めているというのを聞いたことがある。伊丹市独自の健康マップみたいなのがあれば使えるかなと思う。

あと、ポイントですよ。先ほどから自己申告かと考えていましたが、ただそれ以外難しいですよ。どこかの市とか、特定健診の健診受けたら、ポイント付与とかどうやっているのかなと。

(委員)

伊丹市も一応、健康診断を受けて何ポイントとあって、先にまずあって、それをしてあとに自己申告する流れになっている。

(委員)

自己申告じゃないと無理ですよなと思いました。

(会長)

自己申告で積極的にそれを活用していただくようなことになれば、それもそれでいいのかなど。広報も必要なことなのかなと思いました。

(会長)

他いかがでしょうか。

(委員)

DXの話につながるのかなと思いますが、伊丹市のオリジナルのエクササイズなんかを行政単位で発信していく。ちょっと難しいかもしれないですけども、こういうことに繋がるよっていう、エビデンスも入れながら、発信できたらいいのかなと思う。知り合いの大学の教員をされている方が、行政からの意向で、わりと高齢者の転倒予防に向けてっていう、かなりカスタマイズしたメニューを作られていて、それを映像で発信するにあたって、うちの天理大学のダンス部が動きがいいので、ちょっと協力してくれないかとなった。そういう様々な立場からですね、そういったところのものをうまく踏まえながら、やっぱりこの運動っていいよねっていうことを、伝わりやすくして活用していければいい。

(事務局)

おっしゃった通り、多分、DX化についてはeスポーツは別になるかと思うんですけども、実際にこの中で、なかなかこう集まって一緒にできなかったものを、家でできるyoutubeを通じてとか、そういうような話が多分スタート的なものもあるかなと思っておりまして、あとはおっしゃるように、スポーツしたらいいよ、健康になるよねっていうのが実際に具体的にどこが健康になるんだとか、どういったものかについていうところに関しては、正直私らもやっぱり、横の連携ってのはなかなか行政内部でもできてない部分があるのかなと思っておりまして、先ほどのポイントも含めて、いわゆる健康政策課と連携しながらっていうところになるんですけど、スポーツと健康であったり、例えば、医療と実際どうなんだというふうなところも発信していく必要があるかと思っている。

(会長)

その他何かありますか。

(委員)

スポーツ21の役員等をされている方は知っているんですが、一般の方からするとスポーツ情報を知らない人が多い。広報なんかは紙面が限られていると思うが、川西市の広報はうまく情報が網羅されているが、伊丹市の場合は情報がぎっしりになっているのでわかりやすく載せてほしい。

(事務局)

確かに私も伊丹じゃなくて三田市に住んでるんですけども、広報誌は伊丹市が月2回、三田市は月1回で冊子型になっておりまして、カラーでいろんな情報が載ってるっていうようなところ、川西市もよく似たところなんだなというふうに思っておりまして、やっぱり伊丹のほうでも広報を月2回発行でぎっしりになっており、イベントのところも、もう必要最小限の表現しか載せてくれない部分もあるんですけども、やはりデジタル化というところもあるんですけど、ハイブリッドでしていかないといけない。

やっぱり紙でもしていかないといけない部分もあるでしょうし、よりデジタルでっていうところもあるかなというふうに思っております。

さきほど別の市の話をしたんですけど、三田市でも、自治会の回覧板をほぼデジタルに変えて、ホームページを見てくださいみたいな形で、あんまり回覧版が最近回ってこないようになってきつつある。伊丹では、そういうところも、ハイブリッドでやっているかと思うんですけども、紙でも情報を見て、わかるっていうのも然りですし、コミュニティ掲示板なんか伊丹市の方にもたくさんありますので、そういったところでも、やっぱり目につくようなこともやっぱりしていかないといけないというところで、研究させていただきたいなと思っております。

(会長)

ここは審議会なので、細かい内容一つ一つということではないと思いますので、いいんですけども、本当に、興味深いですね、これもちょうと詳しくどうなるんですかねみたいなことをちょっとお聞きしたいような内容ばかり載っていますので、ぜひ、これらが充実していくといいなというふうに思います。

スポーツDXですね、これも幅広で今お話いただいた情報発信の部分もありますし、例えばeスポーツの部分もありますし、ほんとに様々です。調査研究ということになっておりますので、いろんな情報収集をされるんだらうと思います。例えば、セミナーを開いてですね、そういう話をしに来ていただいて、事例をご紹介いただくとかですね、そういうことがあると、みんなで共有できたりということもありますのでぜひ、検討いただけれ

ばと思います。

スポーツクラブ 21 につきましても、兵庫県であり伊丹市のセールスポイントのところだと思いますので、引き続き情報発信やら活性化ですね、SNS の活用とかっていうところも、これもクラブの SNS かと思いますが、情報発信というところはいろんなところも出てきましたし、これ、個別単独の案件というよりも、いろんな関係を持ちながら存在しているということがありますので、例えば、研修会ってもう本当にやらなきゃいけないことばかりですけど、SNS 活用セミナーとかですね、そんなことをしても、皆さんのコンプライアンス、リテラシーがあがっていけばいいかと思います。

SNS というのは誰かが 1 人でやるというよりも、いろんな人がそこで情報発信していけばいい部分もあるかもしれませんが、そんな視点でも、みんなで共有するということが大事かと思っています。

あと、色々な関わり合いを持った案件が今日の話でいっぱい出てきましたので、単独というよりも、横連携でつなげなげられたらいいなと思います。

(会長)

その他いかがでしょう。

オリンピックイヤーですし、おそらく社会の機運としてもまたスポーツの盛り上がりが非常に大きくなる時期かなと思いますので、こういうタイミングをうまく逃さないようにしながら、オリンピックに関することも今日出ましたけれども、それも含めて、情報発信や、タイミングよく進んでいくと、かなり関心が高まっていくと思いますのでよろしくをお願いします。

(会長)

その他何かありますか。

(事務局)

次年度の審議会につきましては、例年年 2 回という形でさせていただいております。

今年度の、例えば当年度の取り組みであったり、次年度の取り組み予定みたいな形でさせていただいているかと思っています。次年度につきましては早くて、5 月ごろ開催できたらいいのかなと思っております。日程等いろいろ調整しながら進めていきたいなと思っておりますのでまたその時は、ご連絡を差し上げたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

(会長)

ありがとうございました。

それでは、たくさんの意見、ありがとうございました。

これをもちまして、今年度第 2 回を閉会させていただきたいと思います。

伊丹市審議会等の会議の公開に関する指針第 5 条第 3 項の規定により、ここに署名する。

令和 6 年      月      日  
(2024)

署名委員

署名委員